

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第33週 (8/10-8/16) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		33週	32週	31週	30週
小児科		17	18	18	18
眼科		5	4	5	5
インフルエンザ*		24	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			8/10-8/16	8/3-8/9	7/27-8/2	7/20-7/26	8/3-8/9
			33週	32週	31週	30週	32週
小児科	RSウイルス感染症		0	3	2	1	9
	咽頭結膜熱		3	2	6	4	63
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		26	32	49	53	191
	感染性胃腸炎		52	49	67	52	385
	水痘		2	4	2	1	53
	手足口病	↓★★★	140	204	246	218	1007
	伝染性紅斑	↓	14	15	28	21	94
	突発性発しん		19	15	16	17	79
	百日咳		1	0	3	1	13
	ヘルパンギーナ	↓	45	63	104	85	453
流行性耳下腺炎		10	8	8	1	105	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	1	1	0	5
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	3	1	1	34
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	女性	80歳代	病原体等の検出	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
結核	女性	80歳代	病原体等の検出				

・結核3件(146)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(6)、急性脳炎1件(8)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第33週のコメント

<手足口病> 前週より減少し8.24となった。流行発生警報開始基準値は上回ったまま。

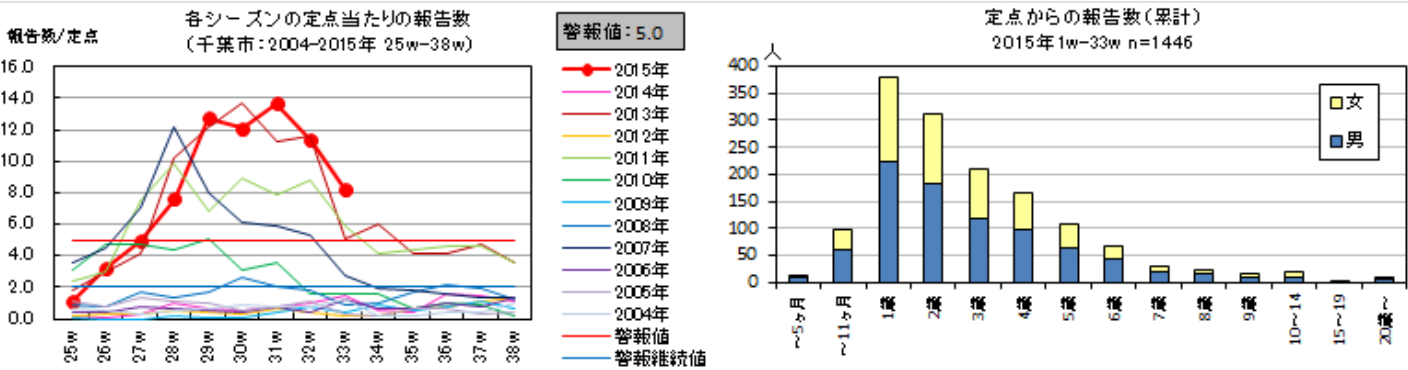
<伝染性紅斑> 前週より減少し0.82となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<ヘルパンギーナ> 前週より減少し2.65となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

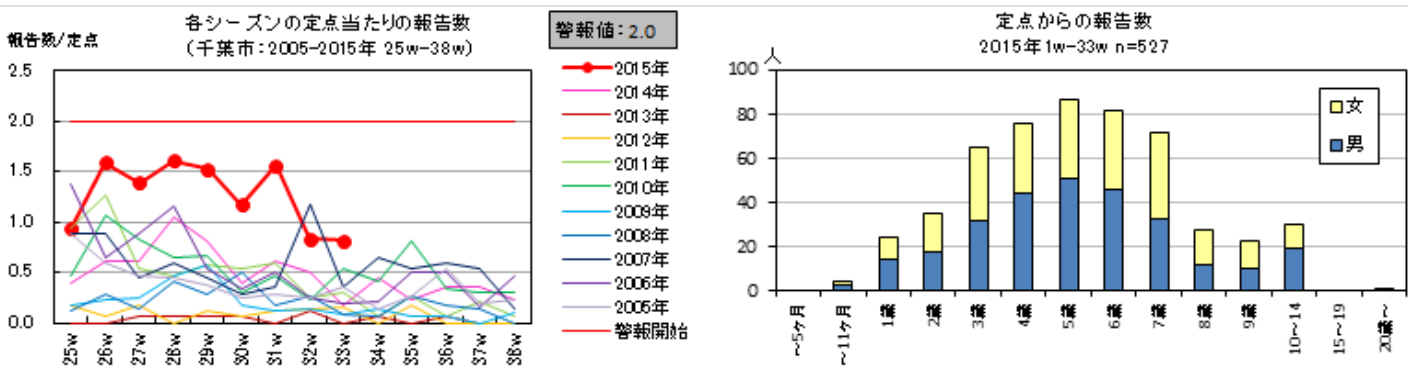
<手足口病>

全国レベルの第32週現在は、過去8年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、新潟県、山形県、宮城県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第33週は前週から更に減少し8.24となりました。過去10年の同時期と比べると最多で、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままです。区別の発生状況は、若葉区(20.5/定点)で流行発生警報開始基準値を上回ったまま最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。その他、稲毛区、中央区、花見川区で流行発生警報開始基準値を上回っています。緑区及び美浜区は流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回っています。2015年第1週から第33週までの累積報告数(n=1446)によると、性別では男性が58.6%(848名)、女性が41.4%(598名)で、年齢階級別では1歳(26.3%:380名)、2歳(21.5%:311名)、3歳(14.5%:209名)の順に多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第32週現在は前週より減少しましたが、過去8年の同時期と比べ最多のままとなっています。都道府県別では、大分県、山形県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2015年第33週は前週より更に減少し0.82となりました。過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(2.33/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回ったまま最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。その他花見川区は流行発生警報開始基準値を下回りましたが流行発生警報終息基準値(1.0/定点)を上回っています。2015年第1週から第33週までの累積報告数(n=527)によると、性別では男性が53.5%(282名)、女性が46.5%(245名)で、年齢階級別では5歳(16.5%:87名)、6歳(15.6%:82名)、4歳(14.4%:76名)の順に多くなっています。



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの第32週現在は、過去8年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、高知県、和歌山県、長野県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第33週は前週より更に減少し2.65となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(7.0/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。その他、緑区は減少し流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回っています。2015年第1週から第33週までの累積報告数(n=402)によると、性別では男性が49.5%(199名)、女性が50.5%(203名)で、年齢階級別では1歳(29.6%:119名)、2歳(19.7%:79名)、3歳(16.4%:66名)の順に多くなっています。

